

東浦町教委との話し合い 2020年9月30日(水) 17:00～ 於 東浦町役場

長＝恒川渉 教育長 委＝東浦町教育委員会 吉峯宏明 指導主事 永倉元樹 指導主事

組＝知教労 佐田京美 委員長(大府中) 市野司 副委員長(西部中) 古川登 東浦支部長(片葩小)

コロナ禍における学校訪問等の教育活動について

組 他市町が学校訪問を中止する中で、なぜ東浦町は指導案を書かせてまで学校訪問を行うのか。

委 現職教育や授業力研鑽への指導・助言を目的として、授業時間を削ることのないよう行っている。指導案は授業の流れを考えられるよう、力量向上のために書いてもらっている。

組 力量向上は大切だが、一方で多忙化解消も大切だ。東浦町の超勤状況は他市町と比べて突出している。「多忙化解消」が言われる中で、逆に町全体としては超勤がここ数年右肩上がりに増えている。この状況でなぜ学校訪問の指導案を書かせる業務を追加するのか。

委 毎年やっているから追加ではない。各校の現職教育を見て指導・助言も行っている。

組 東浦町の超勤が減らないのは、町教委が本気で多忙化解消を行おうとしていないからなのではないか？西部中は今年度80時間越えが0%だった。これは管理職、職員含め本気で多忙化解消をしようとしていることの表れだ。

組 名古屋市の学校訪問では廊下から授業を見るだけで指導案など書かない。コロナ禍で時間がない中で職員は数時間かけて指導案を書き、訪問に来る人はたった5分程度授業を見るだけだ。

長 授業はできるだけ多くの時間を見る。「お見送り」「お出迎え」や全体会はやらない。授業・指導案を見て、それに対する「返し」がないといけなないので、指導主事が改善点や感想を手紙に書いて伝える。負担はかけるが、年に1回は指導案を書いてもらい、先生方が「授業力を向上させたい」という思いに応えるよう、覚悟をもってやっている。見っぱなしの、実のない学校訪問を行う気持ちはない。先生方に苦勞は掛けていると思うが、授業にかける情熱は感じ取ることができた。コロナ禍での授業研究はどうあるべきか、内に閉じこもるのではなく授業を公開するために学校訪問は大切な機会だ。

組 コロナ禍で簡略化で済んだものは来年度以降も続けるべき。学校訪問もA4一枚、全体会なしを来年度以降も続けてほしい。

長 コロナ収束後、学校訪問をどうするかはわからない。

組 指導の内容を各教科のプロにアドバイスしてもらうのなら良いが、発問や机間指導等の全体的な部分しか助言されない。

長 自分が現役時代に教えているときも、誰でも言えるようなことを聞いても仕方ない、自分の教科の本質に関わる話を聞きたいと思った。それに近い形にはしたい。

組 知多半島5市5町は愛知県下で夏休みが最も短かったが、そのことの検証や、授業の進み具合を見るための学校訪問ならまだ理解できる。

委 東浦町の先生方が夏休みを削り、行事を精選する中で、今どのような授業をしているのかを見るために、学校訪問には意味があると思う。

組 それは教育委員会が、ふだんの授業日に学校を見に来ればわかることだ。それを「学校訪問」という形にして指導案を書くとすると、学校側は飾ってしまう。指導案を書かなくても、教員は日々授業力向上を目指して授業を行っている。

委 「授業力向上」を形にしたものの一つとして指導案がある。指導案を書けるというのも教員としての技量の一つではないか。

組 指導案の定められた形式でなくても、授業の構想は立てられる。

長 指導案の形式は今まで培ってきたものだが、これでないといけないというものではない。しかし授業の意図を表明することは大切だ。何もなしでは恣意的になりやすい。

組 それならA4半分の「授業の見どころ」程度のもので良いのではないか。

委 校内の現職で行う分には良いが、ねらいや授業の流れをA4に収める機会は学校訪問の他にない。

組 A4一枚書くのにも労力がかかる。コロナ禍で、依然多くの職員が80時間以上働いている中で、なぜ今年その時間を作らねばならないのか。

長 形式はどうあれ、授業の意図が明確にわかることが大切だ。しかしA4一枚だけでは単元の中での位置づけが明確でないという弊害もある。指導案の内容や形式については検討の余地があるということでお聞きしておく。

組 授業力を向上させたい、先生の努力を認めたいという教委の思いはわかるが、まず教育委員会がやるべきは、超勤のパーセントを減らすことではないか？減らしてから「勤務時間内に授業力向上の『努力』をしてください」というのが教育委員会の立場では？東浦町の超勤の実態を見て若い教員は何を思うか？「教職はブラック」が知れ渡り、採用試

験の倍率が下がっているように、東浦を異動先を選ぶ若い人が減ることもありうる。

**長** 学校間格差もある。教育課程の編成権は学校にあるので、多忙化解消のために考えてほしいと伝えている。留守電やタイムカードを入れたりと環境整備も行っている。それでも学校間格差が生じるのはそれぞれの学校で何が問題なのかを分析しなければならないが、組合としてはどう捉えているのか。

**組** それは組合ではなく教育委員会の仕事だ。

**長** コロナ禍で行事をなくした部分と、それでも行事は子どもたちに必要だという部分、今は後者にウエイトをかける中で忙しくなっている。先生方の意識も今までと同じではいけない。多忙化は由々しき事態だと捉えている。

**組** 夏休みが短縮されたことの検証は行ったか。

**長** 職員の夏季休暇が、懇談会の設定により取りにくくなったことは反省している。先生方も子どもたちも疲れが取れない部分もあったが、授業時数が確保できたことはよかったと思っている。

**組** フェイスシールド着用は今も必須事項か。

**委** フェイスシールドで先生の表情が見えるのは良いことだが、これでなければいけないということではない。学校訪問では多くの先生が着用していた。

**組** 学校訪問で教育委員会が見に来るとなれば、皆着用してしまう。学校訪問とはそういうものだ。

**組** コロナ禍で様々な作品応募が自由応募となった。今年度それでできたのだから、来年度以降も自由応募で良いのではないか。

**長** 全体に色々なことが関わる中で、なかなか簡単には自由応募にできない。

**組** 教育課程とは関わりのないところから応募の要請が来る。本来の趣旨からしても自由参加だ。しかし教員が審査員になると趣旨が変わってしまう。

**長** 直接応募を続けられるところは続けられるよう働きかけはしていきたい。

#### 勤務時間・労働条件・部活動について

**組** 変形労働時間制は導入しないか。

**長** しない。

**組** 月 45 時間の上限規制が法的根拠をもった。知教労は多忙化解消のための具体的提案を様々出した

が実現していない。小学校部活は廃止してほしい。

**長** 小学校部活は今廃止することはできない。大会の平日開催を休日開催に、審判を体協や民間に委託しながら移行を考えている。コミュニティスクールをやる中で地域への移行も探っている。

**組** 文科省も言う部活動の地域移行への具体的な計画を、年限を区切って立てるべきだ。

**組** 中学校の朝部活も廃止してほしい。知多管内の某中学校では「朝部は廃止するから、部活をやりたい先生は異動の希望を聞く」と職員に述べた校長もいた。45 時間規制を本気で守るなら、朝部をやる余地はない。

**委** 朝部をやりなさいとは言っていない。学校の規模や練習場所の問題もある。学校で考えれば良い。

**組** 学校に任せて何か改善されたか？せめて「朝の勤務時間外の活動はやめよう」と町教委がリーダーシップをとってほしい。45 時間という結果を出さねばならぬ時に「やめる」という決断をするべきだ。

**組** 「キャリア・パスポート」は怎么样了。

**委** 町として統一したものはない。どうしていくか検討中。あり方や書き方について「これでやりなさい」というものではないと捉えている。

**組** 割り振り変更は本人の希望する時間を取れるということで良いか。

**委** 校長の判断で決めればよい。

#### その他

**組** 自然教室の「火の舞」は危険も伴い、長時間の練習や日暮れ後のリハーサルで多忙につながる。名古屋の事故があったのに続けるのは時流に反する。サイリウム等でやっても十分見ごたえはある。

**長** ただ危険だからやめるのはおかしい。名古屋の事故はずさんな指導が原因だ。東浦町では事故は起きていない。子どもたちの思いを受け止めながらやることや学校の伝統も大切だ。火の恐ろしさを体験的に学ぶ意義はある。「火の舞」を推奨はしていない。多忙化については理解できる。

**組** 特別支援級の要録の形式を通常級に合わせるという話が出ているが、県教委は「児童生徒の実態に合わせた要録の使用」を認めている。

**委** 今のところ個別に合わせた形だと思っている。情勢の変化で検討の可能性は秘めている。

以上